

離れても繋がる 想い

ふるさと観光大使に聞く

新しい春から約1カ月。故郷を離れる人、見送る人、さまざまな人の想いが巡る季節です。遠方から安曇野を支えていただいている「ふるさと観光大使」に離れてもつながる安曇野への想いについて聞きました。

早春賦まつりと上松美香さん

初 めて出演したのは、当時の穂高中学校に通っている13歳の時。アルパ奏者・上松美香の初舞台は、実はこの早春賦まつりなんです。このイベントは、私にとって思い出深く、この場所での演奏はとても貴重な時間です。

ふるさとへの想い

17 歳でデビューし、演奏活動のため上京し、故郷を離れましたが、早春賦まつりを口実に毎年実家のある安曇野に帰ることができて嬉しいです。毎年皆さんが笑顔で出迎えてくれ、美しい北アルプスの山々が「お帰り」って言ってくれるようで、本当に温かい場所です。

現在2児の母ですが、本音をいえば子育ては安曇野でしたいくらい。この季節は木々の芽吹きが美

しく、空気も水も澄んでいる。子どもたちと一緒に湧水公園で遊びましたが、本当にのびのびとした顔を見せてくれるんです。これからも、子どもたちに安曇野の自然を見せたいし、感じさせたいと思っています。

観光大使として

私 は曲作りもしますが、いつもその背景にあるのは生まれ育った安曇野です。音楽を通してたくさんの人に安曇野を知ってもらいたいし、お話ししていきたい。それをきっかけに訪れてもらえたら幸せです。



会場全体で市歌と早春賦の大合唱が行われ、春の安曇野に歌声が響き渡った。(4月29日)



株式会社 中村屋

観光大使就任 平成 26 年 4 月 10 日
東京都新宿区に本社を構える老舗食品会社。穂高出身の相馬愛蔵が明治 34 年（1901 年）、パン屋として東京・本郷に創業。平成 26 年 10 月にリニューアルオープンした「新宿中村屋ビル」では、美術館が併設され、安曇野ゆかりの芸術を発信している。
(写真：(株)中村屋社長 鈴木達也さん)

碌山美術館と中村屋

中 村屋の創業者である相馬愛蔵は安曇野穂高出身です。相馬夫妻は芸術に深い造形があり、同郷で新宿西口にアトリエを設けていた荻原守衛や、守衛を慕って中村屋に集った芸術家たちを支援してきました。私たちは、創業者の想いを受け継いでいくことが企業としての努めであると考え、開館当初から碌山美術館を応援しています。

創業者の出身地に誕生した碌山美術館は、安曇野の地にマッチした、雰囲気のある素敵な美術館です。是非、多くの方に訪れてもらえればと思っています。



碌山美術館開館60周年を記念して行われた式典。1958年、多くの人の熱意と約30万人の寄付により創設された。(4月22日)

観光大使としての想い

安 曇野市とのつながりはこれからも大事にしていきたいですね。中村屋の新社員は毎年安曇野を訪れ、研修を行います。

これは、中村屋の原点である創業者夫妻の信念を学び、会社の歴史や伝統を知ってもらうことを大切に考えているからです。そして、社員全員に安曇野のファンになってもらいたいという思いもあります。私自身も家族を連れ、毎年安曇野にプライベートで訪れています。

昨年は、安曇野市内の飲食店と夏野菜カリーを共同開発したり、新宿中村屋ビル内のレストランで、安曇野産食材とワインを提供するイベントを開催するなど、食を通じた交流も深められました。ふるさと観光大使として、これからも良い関係を築いていきたいと考えています。



碌山館本館の扉は、創館時に中村屋が寄贈。



あげまつみか
上松美香さん（穂高出身）

観光大使就任 平成 25 年 4 月 28 日
日本を代表するアルパ奏者。現在2児の母であり、育児をしながら、自身のアルパ教室で後進の指導に精力的に取り組む。演奏活動などを通じ、安曇野市の良さを多くの人に伝えている。